

# 2024年 ダナン家族旅行

右城 猛

## 1. はじめに

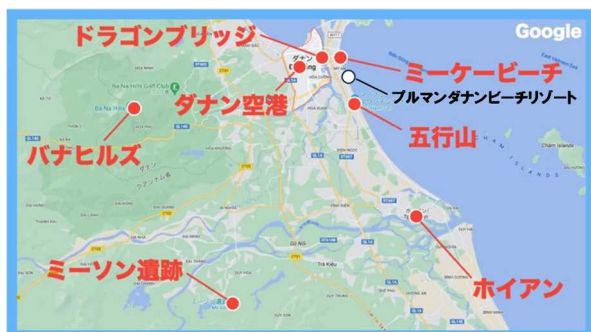
正月休みを利用して、家族10人全員でベトナムのダナンへ行ってきた。成田での前泊を含めると4泊6日の旅である。

ダナンに着いた12月30日の夕方はハン川のクルージング、翌日は世界文化遺産に指定されているホイアの旧市街、元旦はバナヒルズ、最終日の2日は五行山とハン市場を観光してきた。

30日と31日は天気恵まれたが、それ以外は雨。ベトナムは雨期だから仕方がない。



ダナン位置図(ネットから引用)



観光先(ネットから引用した地図に加筆、ミーソン遺跡以外)

## 2. 高知からダナンへ (12月29日)

12月29日、高知空港13時10分発のANAで羽田空港へ。羽田空港からリムジンバスで成田空港へ行き、そこからはホテルの送迎バスでANAクラウンプラザホテル成田に。チェックインしたのは17時30分であった。



成田のホテルのロビーの正月飾り



私たちの部屋で大はしゃぎする創士と歓大

12月30日、ホテルで朝食を済ませ6時50分にホテルバスで成田空港第1ターミナル北ウィング4階Bカウンターに行き搭乗手続きをする。

成田空港で1万円を1,500,000ベトナムドンに両替する。ものすごく得をした気分になった。

ダナン行きのVN319便は9時発の予定であったが、機材トラブルのため出発は1時間遅れ。ダナンまでの所要時間は6時間40分。ダナン空港着は、現地時間の14時40分。日本との時差

は2時間ある。

ターンテーブルで手荷物を受け取って空港の外に出ると、JTBと契約している現地ガイドのPhan ha chi(チー)さんが待っていてくれた。

ダナンは暖かいと思っていたが、チーさんが薄手のダウンを着ていたのには驚いた。よく観察すると、ベトナム人の服装は、夏の半袖姿や冬の格好している人と多彩であった。

ダナン空港の国際線ターミナルは、新しくデザインも素晴らしい。平成29年の「ベトナムAPECダナン首脳会議」に合わせて建設されたようだ。

JTBが予約してくれた大型バスに乗って、外の景色を眺めながらホテルへ向かう。途中、大きな観覧車が目に入った。「アジアパーク」にある観覧車「サンホイール」である。琵琶湖畔にあった観覧車「イーゴス108」が運ばれてきたものである。当時は世界一の規模だった。



重機を使わず人力作業をしているベトナムの作業員



バイクは家族の移動手段。交通ルールは二人乗りまでだが、3人、4人が乗っている家族も見かけた。



手荷物を受け取るターンテーブルがあるところで記念撮影



軍隊の建物の正門には2基の大砲が設置されていた



空港を出たところで再び記念撮影



高架橋。橋脚のデザインが素晴らしい。



アジアパークの中にある観覧車「サンホイール」



ハン橋(斜張橋)とロン橋(アーチ橋)



工事中の建物。柱が小さい。



宿泊するホテルの近くから見える女性のブツダ像

### 3. プルマン・ダナン・ビーチリゾート

宿泊したのは五ツ星リゾートホテル「プルマン・ダナン・ビーチリゾート」。ロビーには、クリスマスツリーがあった。ベトナムでは2月まで飾るようである。ロビーから外を眺めると、ビーチが広がっていた。

部屋にはサービスの果物(マンゴー、ドラゴンフルーツ、パッションフルーツ、洋梨)が置かれていた。好き嫌いの激しい創士が、マンゴーとドラゴンフルーツが美味しいと言ってほとんど一人で食べたのには驚いた。逆に歓大は口に合わないようですぐ吐き出した。



プルマン・ダナン・ビーチリゾートの正面



ロビーのクリスマス飾り



ロビーから眺めたプライベートビーチ



部屋にはサービスの果物



ビーチから見たプールとホテル

#### 4. ホテルのプールとビーチ (12月31日)

歓大が旅行で最も楽しみにしていたのがホテルのプール遊び。天気は曇りで肌寒くプールの水も冷たいが、朝食を済ませるとプールに行くことになった。私たち夫婦はビーチを散策することにした。

ミーケビーチはアメリカのフォーブス誌で「世界の美しいビーチ6選」に選出されている。6～8月にはアクティビティを満喫するため多くの観光客で賑わうが、今は雨期で海は荒れて濁っている。サーフィンをするのには良いが、水泳やマリンスポーツはできない。



満面の笑顔で遊ぶ歓大



ホテルのプライベートビーチ。海岸にゴミが流れ着かないのか、ホテルの従業員により掃除が行き届いているのか分からないが、ビーチにゴミが落ちていない。

## 5. ドラゴンディナークルーズ(12月30日)

19時30分に専用車でホテルを出発し、ダナン・ドラゴン・クルーズに乗船し、20時～21時30分までクルージングを楽しむ。

駐車場には無数の大型観光バスが駐車していた。韓国からの観光客が多いようである。



クルーズ船に乗り込む



早速、バリ島民族舞踊のような踊りを見ながら食事。



ライトアップされた斜張橋のハン橋。5分ごとに色が変わる



ロン橋(ドラゴンブリッジとも呼ぶ)をバックに孫と記念撮影



ハン川はたくさんのクルーズ船で賑わっていた



アーチが龍の形をしたロン橋(ドラゴンブリッジ)



シンガポールのマーライオン像のようなマードラゴン像

黄金色の龍（ドラゴン）をモチーフにデザインされた5径間アーチ橋。2013年3月に開通して以来、ダナンのシンボリックな存在として、観光名所となっている。

毎晩18時頃から約15000個のLEDライトが点灯して、橋を鮮やかにライトアップしている。ライトは、約5分ごとに青、緑、黄、赤と4色に変化する。21時になるとドラゴンが口から炎を吹き出すファイヤーショーが始まる。その後で水飛沫も吹き出す。



## 6. ホイアン旧市街観光(12月31日)

ホイアンは、ダナン市の南方30キロ、トゥボン川（ホアイ川とも呼ばれる）の河口に位置する古い港町。1999年（平成11年）に「ホイアンの古い町並み」としてユネスコの世界文化遺産に登録されている。

14時30分に専用ワゴン車でホテルを出発。空は曇っているが雨は降っていない。ホイアン旧市街までは約45分。



五行山から採取した大理石で作られた石像が道路脇にたくさん見られた。



ホイアン旧市街の地図(ネットから引用)



「ベトナム・日本文化空間」の除幕式が2017年11月にあり、安部首相も参列されている。(ネットから引用)



2017年に作られた旧日本人街の入り口の石碑



旧日本人街の入り口に展示されている朱印船の模型



フンフンの家。屋根は日本作りと説明するチーさん

### フンフンの家(馮興家)と日本橋

200年以上前に、シルクやガラスなどの貿易商人の家として建てられた木造建築で、柱やドアは中国、屋根は日本、壁はベトナムの3国を合わせた建築様式になっている。ホイアンの数ある民家の中で最も美しい建築の家として知られている。現在も8代目の子孫が住んでいて、2階ではお土産が売られている。

フンフンの家から少し進むと、日本橋(来遠橋)がある。ここまでが旧の日本人街。橋を渡ると旧の中国人街。

日本橋は、ホイアンに住んでいた日本人が1593年に建造したと言われている。新2万ドンの紙幣に印刷されており、ベトナムで知らない人はいないほど有名なスポットになっている。

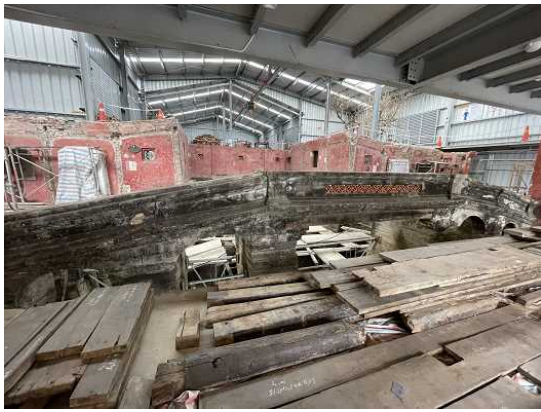
日本橋を見るのを楽しみにしていたが、補修工事のため橋の周囲は塀によって覆われていた。塀の隙間から少し覗くことはできた。



フンフンの家の2階から眺めた日本人街の通り。当時の日本人の家は一軒も残っていない。



工事用の塀の壁に日本橋の絵が描かれていた



塀の隙間から眺めた補修工事中の日本橋



以前の日本橋。これを見たかった。(ネットから引用)



中国人街の民家の壁に、トゥワン川が氾濫して街が浸水したときの水位の高さが残されていた。チーさんが指さしているのは2009年、下の赤い文字の位置は2020年のときの水位の高さ。



旧市街はシクロに乗って観光する人が多い

### 福建会館

日本橋から歩いて5分程度のチャンフー通り沿いに福建会館がある。門構えはまるで中国のお寺のようである。福建会館はホイアンが世界の貿易港であった頃に、現地で暮らしていた華僑が建てたもので、華僑たちの集会場として使われてきた。

一番奥に祀られている、真っ赤な渦巻き線香が吊られているお寺は「天后宮」。航海の安全を祈願する天后聖母を祀るお寺。



福建会館の入り口の門





福建会館



天后宮。赤い渦巻き線香が天井から吊されている。



運氣上昇を祈願



池には鯉が泳いでいた。鯉が出世して竜になる登竜門を表しているのだろう。孫たちには、登竜門を突破して竜になって欲しいものだ。

## バクダン通りの食事と灯籠流し

夕食まで時間があったので、レロイ通りに面した喫茶店に入って休憩する。創士はマンゴーが大好きなのでマンゴージュースを注文したが、マンゴーの繊維が残っておりそれが喉に引っかかって飲めなかったようだ。

ランタンが並ぶトゥボン川に面したバクダン通りあるレストラン「サクラホイアンレストラン&バー」で食事をする。

ここは、2017年に安倍晋三首相がベトナムを訪問した際、ベトナム首相グエン・スアン・フックとディナーを楽しんだレストラン。壁にはそのときの写真が掲示されていた。

食事後は、トゥボン川で灯籠流しを体験する。細長い鉄の棒を使って灯籠をひっかけ、願いを込めて川にそっと浮かべて流した。

夜になるとランタンに火がともされて美しい。ランタンを広場や家の前に吊すと邪気を払い、福を呼ぶ縁起の良いものとされている。



レロイ通りに面した喫茶店に入って休憩



トゥボン川に面したバクダン通り



食事をしたレストラン「サクラホイアンレストラン&バー」



ランタンに灯がともったホイアンの旧市街は美しい



旧市街からバスターミナルまでは、2017年から運行されている電気自動車に乗って移動する。



ベトナムでは、バイクは家族の移動手段。ガイドのチーさんの出身地はホイアン。私たちのガイドのため、両親に1歳半の子供を預け、合羽を被りダナンまで1時間かけてバイクで通ってくれていた。遅いときは夜中の12時を過ぎていた。

## 7. サンワールド・バナヒルズ(2024年1月1日)

8時に専用バスでホテルを出発してバナヒルズ(バーナー高原ともいう)に行く。

途中の車窓には水田が広がっていた。チーさんの説明では、二期作をしており世界一美味しいお米がとれる、南の方では三期作をしているとのこと。日本より美味しい米が作れるとは思えない。また、そんなに米を作って過剰生産にならないのだろうかと思った。

牛が放牧されていた。肉牛のようだ。農耕には耕運機が使われているが、田舎の方ではまだ牛を農耕に使っているようだ。

道路脇の樹木の根元が白く塗られていた。中国でもよく見かけた。白いのは防虫剤。ところどころで植樹帯を剪定している作業員を見かけた。手入れがよく行き届いている。



牛が放牧されていた



根元が白い樹木と植樹帯を剪定する作業員

ホテルから45分でバナヒルズ(Ba Na Hills)に到着した。中世フランスの町並みをイメージしたテーマパークで、2013年にオープンした。

2018年に神の手と言われるゴールデン・ブリッジが完成したことで写真スポットとして話題

になり、ダナンの人気観光地になっている。

開発したのは、ベトナムを代表する不動産会社サングループである。バナヒルズの名前の由来は、たくさんのバナナの木が生えていたことによる。

バナヒルズは、標高 1,487m の山頂にある。山頂までは、10 人乗りのゴンドラリフトで登っていく。ロープの全長は 5,771m、高低差 1,368m はギネス記録に認定されている。ガイドブックには、ロープウェイと書かれているが間違いである。ロープウェイは、ゴンドラを支持するロープと牽引するロープが別になっている。バナヒルズのものはゴンドラが支持するロープに固定されており、ロープと一緒に動く構造になっている。ゴンドラリフトと呼ぶべきである。

料金は年齢ではなく、身長 140cm 以上が大人料金、100～139cm が小人料金、100cm 未満は無料になっている。これだと騙せない。



サンワールドの入り口

ゴンドラリフト乗り場。ここからゴンドラに乗って 20 分でバナヒルズまで行く。



山頂に近づくとしたがつって霧が濃くなり、数メートル先が見えなくなった。ゴンドラの中には中国語やタイ語の園内地図が置かれていたが日本語版はなかった。



バナヒルズは雨と霧で最悪。外は何も見えない。テーマパーク（ファンタジーパーク）に入る。ここでは、室内ゲームやゴーカート、フリーフォールなど家族や子供向けに何千もの屋内ゲームが用意されている。

ゴーカートに乗れるのは身長が 110cm 以上。歓大は残念ながら乗ることができなかった。

3人の若い画家が似顔絵を描いていた。所用時間は一人 10分だと言うので、祐希と私と二人を描いてもらった。実際は 30分以上かかった。

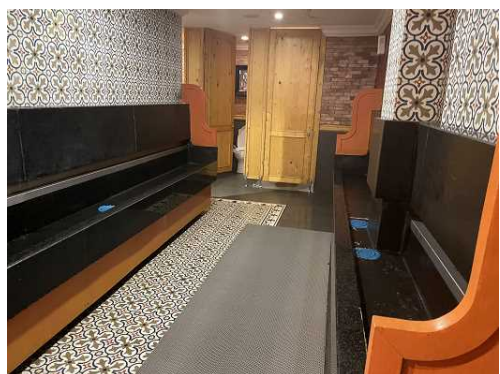
祐希の顔は少し似ているが、どうみても私は似ていない。



昼食はフードコートやバーベキューコーナーで食べる予定になっていたようであるが、雨が激しく降っていたので、ドーム広場にあるバイキングレストラン「Arapang」で食べることにした。

ドリンクは別で一人3,000円。ベトナム人の2日分の給料に相当する。ガイドのチーさんの分も払ってあげた。

驚いたのはトイレ。様式の大使用の便器はあるが小使用の便器が見当たらない。日本の学校などにある手洗いカウンターに似たものがあり常時、水が流れていた。ここが小便をする場所に違いないが、大理石でできて綺麗すぎる。隣の部屋にビア樽の形をした洗面台があったるので間違いないと判断して小便をした。



大理石でできた小使用カウンター



ビア樽の形をした洗面台



金メッキされた像が置かれた階段



ゴールデン・ブリッジの神の手は濃霧でよく見えない



霧が晴れた瞬間に家内が撮った写真



大きな顔のオブジェ



これを見たくて来たのに残念(ネットより)



コンクリートで作られた足のオブジェ



橋を渡ると手のオブジェが置かれていた



各国の国旗があり、観光客が自国の国旗を持って記念撮影をしていた。日本の国旗はないと思っていたら、この写真に写っていた。



バナヒルズの入り口まで降りて集合写真



生け簀にはロブスター、シャコエビ、車エビ、イカ、ハマグリ、ワタリガニ、カキ貝などが泳いでいた。マテ貝が大きいのには驚いた。胴の直径が2cm くらいもあった。

## 8. ダナン海鮮料理 (1月1日)

ダナンに着いた30日に、ダナン空港で撮った家族の集合写真を私のFacebookに上げていたら、徳島大学出身で日建工学株式会社のベトナム事務所に勤務している滝泰臣氏が、「機会があればぜひこちらのレストランへお立ち寄りください」というコメントが入っていた。ミーケービーチエリアにある「フォックタイ」という海鮮レストランである。現地人には大人気の店であるが、観光客はいない。ガイドのチーさんも知らなかった。18時に10人で行くことをチーさんに予約してもらった。

この店はベトナム語しか通じない。堀田朋男が翻訳機を使って店員に注文をしたが、生けすで泳いでいる魚介類指示するだけで調理法までは指示できなかった。

子供たちが食べられたのはエビの塩ゆえだけ。後の料理は激辛味付けのため食べられなかった。



翻訳機に向かってベトナム語を話す店員



海鮮料理レストラン「フォックタイ」





辛いので水をよく飲んだ

## 9. 五行山 (1月2日)

ダナン最後の日は、堀田家と私たち夫婦はホテルを9時に出発し、10人乗りのワゴン車をチャーターして五行山(マールマウンテン)、大聖堂、ハン市場を観光することにした。

明神家は、ホイアのテーマパーク「ピンワンダーズナムホイアン」に行った。

五行山はダナン市のほぼ南端、ホテルから15分ほどに位置している。ダナンが観光地として発展するずっと前から、地元の人たちに大切にされてきた場所である。

半径500mほどのエリアに5つの小さな山が集まっていることから五行山と呼ばれている。マールマウンテンとも呼ばれるのは、大理石できていたためである。

5つの山にはそれぞれ陰陽説に基づいて「火、水、木、金、土」の名前が付けられている。観光客が訪れるのは、一番大きな標高100mのトゥイソンと呼ばれる水山である。五行山と言えばトゥイソンを指している。



五行山のエレベータと七重の塔



トゥイソンのエレベータから見える五行山の一つ



トゥイソンの案内図。写真がある箇所が見所



七重の塔



七重の塔に安置されている仏像



大理石で作られた仏像



9つの頭持つ九頭龍(くずりゅう)は、商売繁盛、金運守護、心願成就、良縁成就等に特に御神徳の神様とされている。



リンウン寺



リンウン寺の釈迦像



釈迦像が安置されているヴァンドン洞窟



最強のパワースポットの入り口にあるのがホアギエム洞窟



フェンコン洞窟の中の観音像



天井に大きな穴が空いている。ベトナム戦争の際に投下された爆弾で空いたもの。正午には光りの筋が何本も射ってきて幻想的になる。

## 10. ダナン大聖堂とハン市場(1月2日)

五行山の後、ダナン大聖堂に行ったが生憎の休館日で見学することはできなかった。ヨーロッパの大聖堂に比べると作りや色が安っぽい。



ダナン大聖堂



ハン市場の鮮魚売り場。太刀魚が驚くほど大きい



肉や鮮魚売り場に冷蔵庫はない



果物の種類が豊富



貴金属店が数店あった



ハン市場は品物と人で溢れている。ブランド品の衣服、靴、鞆が山と積まれているが、すべて安い。しかし活気がある。毎年 80 万人が減っている日本とは大違いである。



ランチは、チーさん推薦のイタリアンレストラン



パスタなど料理はすべて美味しかった。中でも私一人が注文したこのスープが抜群に美味しかった。



ドラゴンブリッジで記念写真を撮ってダナン観光を終えた

### 11. ビンワンダーズナムホイアン 1月2日

明神家は、ベトナム最後の日をホイアンのテーマパーク「ビンワンダーズナムホイアン」で楽しんだ。



### 12. ダナンから高知へ(1月3日)

最終日、ホテルには13時30分に帰り、出発する21時過ぎまで風呂に入ったり、マッサージをしてもらったり、旅行中に撮った写真を整理したりして時間を費やした。

21時30分にワゴン車でホテルを出発し、22時にダナン空港に到着した。空港内は韓国、日本などへ帰国する観光客で溢れていた。



帰国する観光客で溢れるダナン空港の国際線ターミナル

時間	航空会社	目的地	出発	到着	気温	状態
00:25	VN336	大阪	21-23	21:25	44°F	遅機
00:30	RS512	仁川	37-40	21:30	35°F	遅機
00:35	VJ870	大塚	31-33	21:35	42°F	遅機
00:45	ZE594	仁川	13-16	21:45	35°F	遅機
00:45	VN430	仁川	24-27	21:45	35°F	遅機
01:00	TW130	大塚	9-12	22:46	42°F	遅機
01:05	BX774	釜山	41-44	22:05	41°F	遅機
01:10	TW182	清州	1-4	22:10	33°F	遅機

時間	航空会社	目的地	出発	到着	気温	状態
01:15	LJ100	釜山	51-54	02:15	41°F	遅機
01:35	LJ070	仁川	45-50	02:15	35°F	遅機
01:50	TW128	仁川	5-8	02:15	35°F	遅機
01:50	VJ858	秀安	28-30	02:15	39°F	遅機
01:50	TC2904	仁川	34-37	02:15	35°F	遅機
02:00	QH9186	秀安	17-20	02:15	39°F	遅機
02:30	VJ888	釜山	31-33	02:15	41°F	遅機
02:50	FD635	曼谷-DMK	33-35	02:15	87°F	遅機
03:00	JK702	台北	4-8	02:15	62°F	遅機
03:00	VJ8664	中部	14-16	02:15	50°F	遅機

時間	航空会社	目的地	出発	到着	気温	状態	
22:30	5J5757	尼港阿蓋諾机场	13-16	19:30	28°C	柜台关闭	
22:35	VJ880	仁川	31-33	19:45	2°C	柜台关闭	
22:45	NX977	澳門	41-44	19:55	17°C	遅機	
22:55	OZ756	仁川	1-7	20:20	2°C	遅機	
23:20	VS5522	仁川	46-53	20:20	2°C	遅機	
23:20	VJ878	仁川	8-11	20:35	2°C	遅機	
23:35	TW192	仁川	34-35	20:40	2°C	遅機	
00:20	ANA	NH9728	東京	17-20	21:20	4°C	遅機

空港の電光掲示板に表示されている目的地を見ると、日本が大阪、中部、東京の3便、韓国が19便(11便は仁川)、台湾1便、フィリピン1便、タイ1便、マカオ1便。韓国からの直行便が突出して多い。中国人には入国許可を出していないが、特別行政区のマカオと香港だけは入国を許可しているようだ。

予定通り、0時20分発のVN318便でダナン空港を発ち、1月3日の7時35分に成田空港へ到着した。所要時間は5時間15分。往路より1時間25分も短い。

旅行期間中、日本では能登半島地震、羽田空港で航空機衝突事故があった。この事故の影響で3日の羽田空港を発着する150便が欠航になっていたが、高知行き11時発のANA563便だけは40分遅れで出発。無事、高知へ帰ることができた。運がいいとしか言いようがない。

4日は会社の仕事始めである。8時半には年頭の訓示をし、10時には土佐神社に幹部社員と一緒に参拝しなければならない。どんなことがあっても欠席することはできない。もし飛行機が

飛ばなければ、私一人新幹線か夜行バスで高知へ帰る覚悟を決めていた。出発してくれて本当にホットした。

### 13. あとがき

私と家内にとってベトナムは3度目目であった。15年前の5月に家内と次女の3人でハノイ・ハロン湾を3泊4日で観光した。10年前には家内と2人でハロン湾・ハノイ、アンコールワットを4泊6日で観光した。家族全員で海外へ行くのは今回が初めてであった。

ベトナムの人口は1億人。平均年齢が31歳と若い。老人をあまり見かけない。タクシーのドライバーは30代と若い。タクシーを呼ぶにはGrabという配車アプリが使われている。食事に行くため次女がホテルからタクシーを呼んだところ、1分で来たと驚いていた。

ホテルからレストランに行く間、タクシーのダッシュボードに固定されたiPhoneの翻訳アプリでドライバーと会話を楽しむことができた。ドライバーが若いからできると思った。

ダナンのホテルの前にあるK-マーケットで買い物をしたとき、歓大がベトナム語で話している店員に「なぜ英語でばかり話しゆが」と尋ねたようだ。航希は高知に帰って来て高知空港を見て「小っちゃい」と言っていた。

ダナンには信号機がほとんどない。バイクと車がクラクションは鳴らしながらけたたましく走っている。道路を横断するには度胸がいる。

高知に帰ると不気味に思えるくらい静かである。車が整然と走っている。日本の常識は世界の常識でない。4人の孫にとっては良い経験になったことだろう。

ダナンは料理が美味しい。コーヒーも美味しい。ホテルの朝のバイキング料理は豊富で味が素晴らしかった。いつも食べ過ぎた。観光地としてのレベルも高い。見所がたくさんある。今度は雨期を避けて春に行きたいものである。

【2024年1月8日・記】